

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500629		
法人名	特定医療法人フェニックス		
事業所名	グループホームひだまり(たんぽぽ)		
所在地	各務原市鵜沼各務原町9丁目204-4		
自己評価作成日	平成22年6月25日	評価結果市町村受理日	平成22年8月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170500629&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年7月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接の複合施設、畑、のどかな住宅地といった立地を生かし、社会資源を活用しながら、入居者様の生活を支援しています。地域の行事への参加、日々の散歩など地域の中に入り込み、気軽に声をかけてくださる方が徐々に増えてきています。ご家族にもご協力いただきながら、毎日楽しく元気に過ごしていただけるよう、日々努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑豊かな野菜畑に囲まれた環境にあり、広い法人の敷地内には複数の施設が隣接し、ホームの利用者は通所のリハビリテーションなども利用し、体力の維持と気晴らしに一役かっている。各ユニットの利用者が体調や病状の変化に伴った最良のケアを受けられるよう、ユニット間で連携してケアの情報を伝え合い、利用者は勿論のこと、家族の安心感も得ている。年に数回、法人のバスを利用し、アクア・トや桜の花見などの遠足を行い、一緒に参加した家族から感謝の声も出るなど、利用者・家族との絆を深める行事ともなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(たんぽぽ)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の他に、ひだまり独自の「ゆったり、楽しく、寄り添って」という理念を掲げている。各ユニットに掲示することで共有し、カンファレンスなどの場を通して話し合いなどを行っている。	ホーム独自の理念「ゆったりと楽しく寄り添って」をケアの原則とし、職員間の共有を深めるため、3ユニット合同で毎月会議を持ち、日々のケアの活用と実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治体に参加し、回覧板の行き交いがあり、左義長や防災訓練、地域の清掃活動などの地域行事に参加している。日常的な散歩時に積極的に挨拶をするなど交流はかかるようにしており、近所の方から声をかけてくださることが増えた。	左義長や夏祭り等のイベントには法人として取り組む一方、自治会の行事内容に合わせて、利用者も共に参加し、地域の一員として、存在を認められつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の催し(防災訓練など)にて近所の方とGHや認知症のことなど話し、理解を深めていただくきっかけとなった。／散歩などで地域の方から声をかけていただくことがあると、傾聴し、場合によっては適切な対応につなげている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入退居状況、ほっと報告やヒヤリ・ハット報告の他、日常生活の様子を伝えている。出席された方からいただいた質問や提案をその後のサービス提供に生かしている。地域の行事への参加時の調整も行っている。	2ヶ月に1度、自治会長や班長・民生委員・家族代表・行政担当者の参加があり、ホームからの報告に留まらず、ほっと報告・ヒヤリハットの現状などを伝え、表出した意見や質問には丁寧に対応し、その検討内容もカンファレンスに反映させ、活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点があれば、随時市に連絡して確認することで、各務原市高齢福祉課の担当者との良好な関係を築き、サービスを提供する上での疑問点に関する指示を仰ぎ、実践することで質の向上に努めている。	運営推進会議には行政の担当者が出席しており、事あるごとに相談や質問を行ない、伝えるべき点についても率直な意見交換が実現できており、家族への対応へも活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を行い、身体拘束に対する職員理解を共有化している。現段階では身体拘束はない。／玄関は一般家庭と同様に、夜間帯は施錠している。	身体拘束と虐待の研修会を行い、日々のケアの中でも職員間で確認し合うよう努力している。	日々のケアを担う職員には、とっさの判断が求められる場面も想定できることから、ロールプレイなど、実践的な学習の機会を与えられるよう、今後に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する勉強会を行い、虐待に対する職員理解を共有化している。特に、スピーチロックには注意を払っている。	/	/

岐阜県 グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市や他事業所(包括)から資料をいただいている。ご家族にも職員にも配布し、理解を深める機会を設けている。また、研修や資格取得に向けてなど各自が学んでいる。／手続きの橋渡しや支援をさせていただいた入居者様あり。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約担当者が丁寧に説明している。ご家族からの疑問があれば理解いただけるよう、担当者よりお話をさせていただいている。／見学にお越しいただくなどして、書面以外の方法での理解も深めていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ふれあいボックス(ご意見箱)を設置し、第三者機関として利用者の意見を受付ける組織を設けており、随時対応できるようにしている。／入居者様とは日々の関わりから、ご家族とは面会時や家族会などでコミュニケーションを図り、声を聞かせていただくようにしている。	意見箱も設置してあるが、家族の意見や要望は面会時に細かく聞き取っており、家族アンケートを通して、ホームと家族との距離が縮まるよう努めている。	前回の改善課題であった、利用者への報告様式の工夫により、家族訪問時などに感謝の声が増えているが、職員の名前の表示法などの工夫にも期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場カンファレンスを定期的を実施し、運営者・管理者・職員の意見交換を行っている。／定期的にも上司と面談の機会があり、意見交換が可能である。	組織の風通しを良くするためにも、定期的な意見交換の場を持つたり、職員の小さな気づきも、利用者にとってプラスになることは即、取り入れるなど、気軽な関係が築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的にも上司と面談する機会が設けられており、自己の振り返り・目標設定などを中心としたアドバイスをいただける。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員(中途採用者も含む)は、法人内の研修がある。また、先輩職員がマンツーマンで指導にあたるエルダー制度があり、一定期間ごとの目標を設定、定期的な振り返り・評価の機会を設けている。役職などに応じた研修もあり。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内でのグループホームの交流はもちろん、市内及びグループホーム協議会を通じ、広く交流する機会がある。お互いのよいところを見習う努力をしている。法人勉強会は地域の公開講座としての開催もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の訴えをその都度傾聴し、不安や希望など思いを受け止めるよう努力している。できる限り、入居者様が望まれることは実現したいと考え、また、少しでも不安が取り除かれ安心して過ごせるよう支援していきたい。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	できるだけサービス導入前に見学に来ていただき実際に様子をみていただくようにし、その中でご家族の思いや悩みをうかがい、その後の関係作りにも反映させている。職員も疑問や伺いたいことがあれば、相談させていただきようとしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループ内に「在宅支援会議」があり、担当者間でそれぞれのご利用者にとって最良の選択ができるように、支援の検討をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人お一人の性格や得意なことを踏まえ、些細なことでもできる限り入居者様がすることは行っていただけるよう、さりげない支援ができるよう影のサポート役になれるよう努めている。入居者様から教えていただくことも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日々の様子を写真を交えたりしながらお伝えしている。また、ご家族にも楽しんで参加していただけるような企画を練ったり、日常的な面会時にご家族を巻き込んで過ごすこともある。3ヶ月に1度、ご家族へ近況報告の便りを出している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出ボックスを活用し、昔の写真などを掲示したり、馴染みのある家具を持ち込んでいただいたりしている。馴染みの人や場所をバックグラウンドアセスメントに記入していただき、スタッフ間での情報共有に役立て、会話のきっかけにもしている。	家族訪問の際に協力を依頼し、思い出ボックスへの展示品・小物の持ち込みに、家族の協力を得ている。以前住んでいた近所の方が訪問に来たり、友人宅へ職員が同行して行ったりと、ホームに入居してもそのままの付き合いができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性を把握し、できる限りトラブルのないように対応している。入居者様同士で穏やかな時間がすごしているときはそっと見守ることも大切にしている。他のユニットで過ごす時間を持つ方もみえる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に住み替えとなる際の情報提供を行っている。また、隣接施設のメゾン・ペイネへ移行された方もおられ、入浴時、ボランティア来訪時など日常生活の中で関わりを持つことも多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	バックグラウンドや日常の様子から、ご本人の思いを把握するよう努めている。また、やってみたいことなどを直接うかがうようにもしている。言葉での表出が困難な方は、表情や雰囲気などから思いを汲み取るなど、思いに寄り添えるよう努めている。	利用者の相性や、ユニット毎の特徴を活かした利用をしてもらうため、日々の会話・表情・行動から利用者の思いや意向の把握に努めている。また日々の中での発見があった場合は、一言メモに書き込み、職員間で共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドアセスメントをご家族に記入していただいたり、入居者様へのアンケートを活用して過去の暮らし方を把握する手がかりとしている。入居前に利用されていたサービスのある方は、事業所より情報をいただき活用もしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時に一度総合的に把握し、その後関わりの中から日常の様子(ADLや情緒面)を徐々に把握していく。それぞれカルテ記事への記録やカンファレンスなどの活用により、スタッフ間の共有を行うことで多くの視点で検討・把握していける。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度を目安に計画書を作成しているが、モニタリングは、毎日のチェックと毎月の話し合いによって行っている。状態変化や意向の変化があれば見直しをし、ご本人の「今」に寄り添った計画の作成に努めている。	意思を伝えることのできる利用者には希望を聞き取り、寄り添った介護計画を作成している。意思確認が難しい場合でも、表情を読み取って、職員間で意見交換や試行錯誤を重ねながら、利用者が望む生活が継続できるよう図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリング用紙にケアプランの実施結果を毎日記入している。毎月評価し、職員間で話し合っている。カルテ記事やほっと報告、トリガーシート、日誌なども活用し、情報共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接の複合施設の機能を活かし、特養の入浴機械(機械浴)を利用して入浴していただいたり、デイサービスの運動機器や卓球を体験に行ったりと、その時々状況に応じて、できる限りご本人の希望に応えられるよう配慮している。		

岐阜県 グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアの来訪あり、「音楽を聴きたい」という希望には添えている。1月には地域の神社と文化財で催されたイベントへ参加、いつもボランティアに来てくださる方の力もお借りしながら無事に終えることができた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診を支援している。ほとんどの方が鷺沼中央クリニックへの支援であるが、今までのかかりつけ医を継続される方もいらっしゃる、ご家族を通してホームとの連携に努めている。歯科や眼科はご家族のご協力がかかりつけ医を受診していただいている。	利用者のほとんどが母体法人の医療を希望しており、毎週1回の往診と訪問看護師によって、利用者の体調は万全に守られている。歯科は訪問診療が行われ、眼科の受診は家族の責任で受診をしてもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体法人の医療機関から看護師が定期的に訪問し、健康管理や心身の変化に対して相談に応じている。複合施設内の看護師も毎日の報告を行うことで早期の対応につなげている。必要であれば24時間365日いつでも連絡できる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報の交換は必ず行い、入院の場合は面会に行くなど様子を伺うようにしている。母体法人の医療機関やかかりつけ医と連携を持ち、家族と情報交換したり、話し合いのための支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアへも積極的に取り組んでいる。入居時に重度化や終末期におけるホームの対応を説明している。また、対応すべき時期を迎えたときは、ご家族、医師、看護師、職員と話し合いの場を設け終末期ケアに関する書類も作成する。グループ施設の中で一番合う施設を選ぶこともできる。	基本的に看取りを行うと決めているが、医療依存度が高い利用者は他施設へ移ってもらうよう依頼している。入居の際には、意思確認書を家族と交わし、また利用者が重度化した場合も、主治医・家族・ホームが慎重に話し合いを行っている。	看取りを行う前提であっても、そこに至るまで様々なケースが考えられるためにも、明確な看取りの基準をホームとして作成し、家族への説明を繰り返し行い、判断基準等、マニュアル化しておくことが望ましい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。消防署立会いの下、心肺蘇生法の訓練を行ったこともある。今後も定期的に勉強の機会を設けていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施し、避難の方法など学んでいる。また、地域の防災訓練に参加したり、運営推進会議で訓練の報告をしている。実際にホームを会場とした訓練で地域の方と一緒に等々の取り組みまではできていない。	法人の敷地内で定期的に消防署との訓練を実施し、利用者も共に訓練を行っている。夜間等、何か起きれば法人全体での協力が得られる体制となっている。	地震なども含めた災害時には、家族へ避難場所の連絡方法や、職員の通勤確保の方法など、職員は様々な状況を想定し、その対応が図れるよう期待したい。また、地域の協力体制も望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけは、その方の生活暦や性格などを考慮しながら(「先生」と呼んだり、分かりやすい言葉で話したりしながら)対応している。入居者様の行動に対し、不十分なところはさりげなくフォローするなどしている。	利用者のプライドと誇り・尊厳を守れるよう、職員間で常に話し合い、支援を重ねている。個人情報取り扱いも理解し合い、トイレ介助時の方法等も職員間で共有し合うなど、相互の信頼関係を基に、状況に即した対応を支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の何気ない会話から希望を引き出したり、改まって伺ったりと、思いの表出が気軽にできる場面作りと関係作りに努めている。それらが困難な場合でも、二者選択などお一人ずつレベルに合わせた対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	にぎやかに過ごしたい、少し自分の時間を持ちたい、散歩・買い物に行きたいなど、その日の気分で過ごせるよう支援している。押し付けないよう、ご本人のペースを大切に、体調や要望を最優先しながら場面場面での支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服装は選べる方には選んでいただき、困難な方には二者選択などの方法で支援している。カラーやパーマなど、昔からの馴染みの習慣を継続できるような支援もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや片付けなど、できる方には役割として行っていただいている。食べこぼしなどをさりげなくふき取るなどの配慮をしている。月に一度「自由メニュー」の日を設け、食べたいものの相談から、調理に至るまで入居者様と行っている。	法人の厨房で一括に作った食事をホーム内で盛り付け、配膳している。利用者が互いに味噌汁やお茶を配ったり、全員の食卓に行きわたったかどうかを気かけ、下膳も進んで参加し手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士や医師、看護師と連携をとりながら入居者様にあった支援をしている。摂取能力や体調にあわせ、刻み食、ペースト食への加工、一人ひとりに合わせた量での提供、摂取しやすい環境づくりをしている。栄養補助食品を活用する場合もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行い、週に2回ポリドントでの義歯洗浄を行っている。また、週に1度、重曹を用いて下苔の除去を行っている。		

岐阜県 グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合うオムツを検討している。その結果、紙パンツから布パンツへと変更できた方もみえる。その方に合う排せつパターンからトイレ誘導を行い、トイレでの排せつを促している。	一人ひとりの排泄表を細かく記入し、家族の希望も合わせ、できるだけ自力で排泄できるよう職員間で話し合っており、より良い方法と支援を行っている。こまめな誘導により、利用者の成功感が得られるよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、乳酸菌やセンナ茶、通じによい食品の使用、身体を動かすなど、便秘の予防に努めている。マッサージなどを行い、できる限り自然排便を促している。在宅での様子、今までの習慣をご家族から聞き取り参考にもしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は決まっているが、入る時間帯はなるべく希望をかなえられるように対応している。一般浴、個浴(半機械浴)、機械浴と個々の身体機能に合わせて入浴していただいている。	週2回の入浴を基本としているが、希望によってはシャワーや足浴にも対応している。同じ敷地内にある法人の大浴場に出かけ、銭湯気分を満喫している。入浴拒否の人には、カラオケを行った帰りに、浴室に寄るなどの工夫により、入浴も自然に行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調やリズムに合わせた支援に努めている。生活リズムが整えられるよう、日中の活動を促すなどの配慮もしている。眠れない方には温かい飲み物などで薬に頼らない支援を心がけている。また、空調や居室環境への配慮もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は服薬時間に合わせて色分けしている。服薬時はスタッフ二人で確認しながら行い、入居者様それぞれの薬が簡単に確認できるシステムとなっている。内服薬の一覧表があり、一目で調べられるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な分野を見つけ出し、入居者様のこれまでの生活や力量に合わせて家事的なこと(洗濯、台所しごと、掃除など)を中心にそれぞれにあった役割を持てるよう支援している。楽しいと思えるアクティビティ(散歩・歌など)の計画もしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に近隣の散歩、ひなたぼっこを行っている。また、買い物やドライブ、隣接するデイサービスセンターへの卓球や運動マシンの体験、ボランティア来訪時には特養へ出掛けしている。ご家族と法事や墓参り、喫茶店などに行かれる方もみえる。	介護度やその日の体調・天候に合わせて柔軟に、散歩や畑の見学などを行っている。散歩ができない時でも、中庭の畑に面した廊下やベランダで外気に触れることができる。隣接した喫茶に行ったり、通所の利用者に交じって運動マシンを楽しむ利用者もいる。	

岐阜県 グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時個人現金をお預かりし、保管はホーム側で行っている。外出時の支払いなどは、遠慮されることが多いが、入居者様にしている。ただけるような場面作りと支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手や目の老化により書くことが困難になっておられる方も多いが、年賀状や季節の便り(カードなど)などの記入の機会を提供できるように支援していく。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的で温かい雰囲気を感じていただけるよう、板張りの廊下や開放的な窓にし、調度品や台所の設備も、普通の家庭と変わらないものを使用している。畳やソファなどもあり、自由な場所でくつろげるスペースがある。	木のぬくもりをふんだんに使ったホームの廊下の端々には、椅子やソファが置かれ、一人で過ごせるよう配慮もされている。ほとんどの利用者は、日中、共用空間であるリビングで、職員や利用者仲間と談笑しながら、ゆったりと1日を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同のスペース内に畳や椅子のスペースがあるほか、少し離れたところにソファや椅子があったりと気分により、思い思いの場所で過ごすことができる。また、1階のユニットは行き来が自由であり、居心地のいい場所の選択が多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、今まで使用していたタンスなど馴染みの家具や、写真や作品などの思い出の品を持ち込んでいただいている。ご家族のご協力の下、個々にあった居心地のよい空間作りがされている。	居室の入り口はのれんやレースがかけられ、居室には、使い慣れた家具や椅子が置かれている。筆筒の上には、家族や孫との写真や手芸品が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置もあるが、家具などに自然につかまって移動できる配置、構造にもなっている。また、トイレに「便所」「トイレ」と張り紙をしたり、各居室に表札をつけるなどの工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500629		
法人名	特定医療法人フェニックス		
事業所名	グループホームひだまり(すみれ)		
所在地	各務原市鵜沼各務原町9丁目204-4		
自己評価作成日	平成22年6月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(すみれ)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の他に、ひだまり独自の「ゆったり、楽しく、寄り添って」という理念を掲げている。各ユニットに掲示することで共有し、カンファレンスなどの場を通して話し合いなどを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治体に参加し、回覧板の行き交いがあり、左義長や防災訓練、地域の清掃活動などの地域行事に参加している。日常的な散歩時に積極的に挨拶をするなど交流をはかるようにしており、近所の方から声をかけてくださることが増えた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の催し(防災訓練など)にて近所の方とGHや認知症のことなど話をし、理解を深めていただくきっかけとなった。／散歩などで地域の方から声をかけていただくことがあると、傾聴し、場合によっては適切な対応につなげている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入退居状況、ほっと報告やヒヤリ・ハット報告の他、日常生活の様子を伝えている。出席された方からいただいた質問や提案をその後のサービス提供に生かしている。地域の行事への参加時の調整も行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点があれば、随時市に連絡して確認することで、各務原市高齢福祉課の担当者との良好な関係を築き、サービスを提供する上での疑問点に関する指示を仰ぎ、実践することで質の向上に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を行い、身体拘束に対する職員理解を共有化している。現段階では身体拘束はない。／玄関は一般家庭と同様に、夜間帯は施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する勉強会を行い、虐待に対する職員理解を共有化している。特に、スピーチロックには注意を払っている。		

岐阜県 グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市や他事業所(包括)から資料をいただいている。ご家族にも、職員にも配布し、理解を深める機会を設けている。また、研修や資格取得に向けてなど各自が学んでいる。／手続きの橋渡しや支援をさせていただいた入居者様あり。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約担当者が丁寧に説明している。ご家族からの疑問があれば理解いただけるよう、担当者よりお話をさせていただいている。／見学にお越しいただくなどして、書面以外の方法での理解も深めていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ふれあいボックス(ご意見箱)を設置し、第三者機関として利用者の意見を受け付ける組織を設けており、随時対応できるようにしている。／入居者様とは日々の関わりから、ご家族とは面会時や家族会などでコミュニケーションを図り、声を聞かせていただくようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場カンファレンスを定期的を実施し、運営者・管理者・職員の意見交換を行っている。／定期的上司と面談の機会があり、意見交換が可能である。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的上司と面談する機会が設けられており、自己の振り返り・目標設定などを中心としたアドバイスをいただける。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員(中途採用者も含む)は、法人内の研修がある。また、先輩職員がマンツーマンで指導にあたるエルダー制度があり、一定期間ごとの目標を設定、定期的な振り返り・評価の機会を設けている。役職などに応じた研修もあり。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内でのグループホームの交流はもちろん、市内及びグループホーム協議会を通じ、広く交流する機会がある。お互いのよいところを見習う努力をしている。法人勉強会は地域の公開講座としての開催もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の訴えをその都度傾聴し、不安や希望など思いを受け止めるよう努力している。できる限り、入居者様が望まれることは実現したいと考える。また、少しでも不安が取り除かれ安心して過ごせるよう支援していきたい。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	できるだけサービス導入前に見学に来ていただき実際に様子を見ていただくようにし、その中で、ご家族の思いや悩みをうかがい、その後の関係作りにも反映させている。職員も疑問や伺いたいことがあれば、相談させていただくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループ内に「在宅支援会議」があり、担当者間でそれぞれのご利用者にとって最良の選択ができるように、支援の検討をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人お一人の性格や得意なことを踏まえ、些細なことでもできる限り入居者様ができることは行っていただけるよう、さりげない支援ができるよう影のサポート役になれるよう努めている。入居者様から教えていただくことも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日々の様子を写真を交えたりしながらお伝えしている。また、ご家族にも楽しんで参加していただけるような企画を練ったり、日常的な面会時にご家族を巻き込んで過ごすこともある。3ヶ月に1度、ご家族へ近況報告の便りを出している。		
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所をバックグラウンドアセスメントに記入していただき、スタッフ間での情報共有に役立て、会話のきっかけにもしている。以前利用していたデイサービスのお友達に会いに行ったり、散歩コースだった場所を訪れたり、個別に対応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性を把握し、できる限りトラブルのないように対応している。入居者様同士で穏やかな時間がすごせているときはそっと見守ることも大切にしている。他のユニットで過ごす時間を持つ方もみえる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に住み替えとなる際の情報提供を行っている。また、隣接施設のメゾン・ペイネへ移行された方もおられ、入浴時、ボランティア来訪時など日常生活の中で関わりを持つことも多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	バックグラウンドや日常の様子から、ご本人の思いを把握するよう努めている。また、やってみたいことなどを直接うかがうようにもしている。言葉での表出が困難な方は、表情や雰囲気などから思いを汲み取るなど、思いに寄り添えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドアセスメントをご家族に記入していただいたり、入居者様へのアンケートを活用して過去の暮らし方を把握する手がかりとしている。入居前に利用されていたサービスのある方は、事業所より情報をいただき活用もしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時に一度総合的に把握し、その後関わりの中から日常の様子(ADLや情緒面)を徐々に把握していく。それぞれカルテ記事への記録やカンファレンスなどの活用により、スタッフ間の共有を行うことで多くの視点で検討・把握していける。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度を目安に計画書を作成しているが、モニタリングは、毎日のチェックと毎月の話し合いによって行っている。状態変化や意向の変化があれば見直しをし、ご本人の「今」に寄り添った計画の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリング用紙にケアプランの実施結果を毎日記入している。毎月評価し、職員間で話し合っている。カルテ記事やほっと報告、トリガーシート、日誌なども活用し、情報共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接の複合施設の機能を活かし、特養の入浴機械(機械浴)を利用して入浴していただいたり、デイサービスの運動機器や卓球を体験に行ったりと、その時々状況に応じて、できる限りご本人の希望に応えられるよう配慮している。		

岐阜県 グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアの来訪あり、「音楽を聴きたい」という希望にはそえている。1月には地域の神社と文化財で催されたイベントへ参加、いつもボランティアに来てくださる方の力もお借りしながら無事に終えることができた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診を支援している。ほとんどの方が鶴沼中央クリニックへの支援であるが、今までのかかりつけ医を継続される方もいらっしゃる、ご家族を通してホームとの連携に努めている。歯科や眼科はご家族のご協力がかかりつけ医を受診していただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体法人の医療機関から看護師が定期的に訪問し、健康管理や心身の変化に対して相談に応じている。複合施設内の看護師へも毎日の報告を行うことで早期の対応につなげている。必要であれば24時間365日いつでも連絡できる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報の交換は必ず行い、入院の場合は面会に行くなど様子をうかがうようにしている。母体法人の医療機関やかかりつけ医と連携を持ち、家族と情報交換したり、話し合いのための支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアへも積極的に取り組んでいる。入居時に重度化や終末期におけるホームの対応を説明している。また、対応すべき時期を迎えたときは、ご家族、医師、看護師、職員と話し合いの場を設け終末期ケアに関する書類も作成する。グループ施設の中で一番合う施設を選ぶこともできる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。消防署立会いの下、心肺蘇生法の訓練を行ったこともある。今後も定期的に勉強の機会を設けていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い、避難の方法など学んでいる。また、地域の防災訓練に参加したり、運営推進会議で訓練の報告をしている。実際にホームを会場とした訓練で地域の方と一緒に等々の取り組みまではできていない。		

岐阜県 グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけは、その方の生活暦や性格などを考慮しながら(「先生」と呼んだり、分かりやすい言葉で話したりしながら)対応している。入居者様の行動に対し、不十分なところはさりげなくフォローするなどしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の何気ない会話から希望を引き出したり、改まっとうかがったりと、思いの表出が気軽にできる場面作りと関係作りに努めている。それらが困難な場合でも、二者選択などお一人ずつレベルに合わせた対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	にぎやかに過ごしたい、少し自分の時間を持ちたい、散歩・買い物に行きたいなど、その日の気分で過ごせるよう支援している。押し付けないよう、ご本人のペースを大切に、体調や要望を最優先しながら場面場面での支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服装は選べる方には選んでいただき、困難な方には二者選択などの方法で支援している。 カラーやパーマなど、昔からの馴染みの習慣を継続できるような支援もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は盛り付けが主であるが、汁物作りなど入居者様と行っている。準備も片付けも、環境を整えたり目配りを行う程度で入居者様が相談しながら行っておられる。月に一度「自由メニュー」の日を設け、食べたいものの相談から、調理に至るまで入居者様と行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士や医師、看護師と連携をとりながら入居者様にあつた支援をしている。食事摂取量のチェックも行っているが、どなたも完食される。日々の様子とレベル変化に対しての観察は常に行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	居室で行われる方と、共同の洗面所で行われる方がいらっしゃる。毎食後行っていただくよう、声かけや目配りの支援を行っている。また、週に2回ポリデントでの義歯洗浄を行っている。		

岐阜県 グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自己にてトイレに行かれる方が多いが、衣類汚染などうまく処理できない方も多い。見守りや半介助など一人ひとりにあった支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、乳酸菌やセンナ茶、通じによい食品の使用、身体を動かすなど、便秘の予防に努めている。マッサージなどを行い、できる限り自然排便を促している。在宅での様子、今までの習慣をご家族から聞き取り参考にもしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は決まっているが、入る時間帯はなるべく希望をかなえられるように対応している。また、長い入浴を好まれる方には、少し長風呂ができるよう、様子を見ながら支援もしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調やリズムに合わせた支援に努めている。生活リズムが整えられるよう、日中の活動を促すなどの配慮もしている。眠れない方には温かい飲み物などで薬に頼らない支援を心がけている。また、空調や居室環境への配慮もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は服薬時間に合わせて色分けしている。服薬時はスタッフ二人で確認しながら行い、入居者様それぞれの薬が簡単に確認できるシステムとなっている。内服薬の一覧表があり、一目で調べられるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な分野を見つけ出し、入居者様のこれまでの生活や力量に合わせて家事的なこと(洗濯、台所しごと、掃除など)を中心にそれぞれにあった役割を持てるよう支援している。毎晩の晩酌を日課にして楽しみにしている方もみえる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に近隣の散歩を行っている。また、買い物やドライブ、隣接するデイサービスセンターへの卓球や運動マシンの体験、ボランティア来訪時には特養へ出掛けている。ご家族と法事や墓参り、喫茶店などに行かれる方もいらっしゃる。ご家族の協力の下、ユニット全体で水族館に行った。		

岐阜県 グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時個人現金をお預かりし、保管はホーム側で行っている。外出時の支払いなどは、遠慮されることが多いが、入居者様にしていただけのような場面作りと支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族が遠方に住んでおられる入居者様が、定期的にご家族と電話でのやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的で温かい雰囲気を感じていただけるよう、板張りの廊下や開放的な窓にし、調度品や台所の設備も、普通の家庭と変わらないものを使用している。畳やソファなどもあり、自由な場所でくつろげるスペースがある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同のスペース内に畳や椅子のスペースがあるほか、少し離れたところにソファや椅子があたりと気分により、思い思いの場所で過ごすことができる。また、1階のユニットは行き来が自由であり、居心地のいい場所の選択が多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、今まで使用していたタンスなど馴染みの家具や、写真や作品などの思い出の品を持ち込んでいただいている。ご家族のご協力の下、個々にあった居心地のよい空間作りがされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置もあるが、家具などに自然につかまって移動できる配置、構造にもなっている。トイレに「便所」「トイレ」と張り紙をしたり、各居室に表札をつけるなどの工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500629		
法人名	特定医療法人フェニックス		
事業所名	グループホームひだまり(れんげ)		
所在地	各務原市鷺沼各務原町9丁目204-4		
自己評価作成日	平成22年6月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(れんげ)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の他に、ひだまり独自の「ゆったり、楽しく、寄り添って」という理念を掲げている。各ユニットに掲示することで共有し、カンファレンスなどの場を通して話し合いなどを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治体に加入し、回覧板の行き交いがあり、左義長や防災訓練、地域の清掃活動などの地域行事に参加している。日常的な散歩時に積極的に挨拶をするなど交流をはかるようにしており、近所の方から声をかけてくださることが増えた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の催し(防災訓練など)にて近所の方とGHや認知症のことなど話をし、理解を深めていただくきっかけとなった。／散歩などで地域の方から声をかけていただくことがあると、傾聴し、場合によっては適切な対応につなげている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入退居状況、ほっと報告やヒヤリ・ハット報告の他、日常の生活の様子を伝えている。出席された方からいただいた質問や提案をその後のサービス提供に生かしている。地域の行事への参加時の調整も行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点があれば、随時市に連絡して確認することで、各務原市高齢福祉課の担当者との良好な関係を築き、サービスを提供する上での疑問点に関する指示を仰ぎ、実践することで質の向上に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を行い、身体拘束に対する職員理解を共有化している。現段階では身体拘束はない。／玄関は一般家庭と同様に、夜間帯は施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する勉強会を行い、虐待に対する職員理解を共有化している。特に、スピーチロックには注意を払っている。		

岐阜県 グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市や他事業所(包括)から資料をいただいている。ご家族にも、職員にも配布し、理解を深める機会を設けている。また、研修や資格取得に向けてなど各自が学んでいる。／手続きの橋渡しや支援をさせていただいた入居者様あり。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約担当者が丁寧に説明している。ご家族からの疑問があれば理解いただけるよう、担当者よりお話をさせていただいている。／見学にお越しいただくなどして、書面以外の方法での理解も深めていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ふれあいボックス(ご意見箱)を設置し、第三者機関として利用者の意見を受付ける組織を設けており、随時対応できるようにしている。／入居者様とは日々の関わりから、ご家族とは面会時や家族会などでコミュニケーションを図り、声を聞かせていただくようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場カンファレンスを定期的実施し、運営者・管理者・職員の意見交換を行っている。／定期的上司と面談の機会があり、意見交換が可能である。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的上司と面談する機会が設けられており、自己の振り返り・目標設定などを中心としたアドバイスをいただける。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員(中途採用者も含む)は、法人内の研修がある。また、先輩職員がマンツーマンで指導にあたるエルダー制度があり、一定期間ごとの目標を設定、定期的な振り返り・評価の機会を設けている。役職などに応じた研修もあり。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内でのグループホームの交流はもちろん、市内及びグループホーム協議会を通じ、広く交流する機会がある。お互いのよいところを見習う努力をしている。法人勉強会は地域の公開講座としての開催もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の訴えをその都度傾聴し、不安や希望など思いを受け止めるよう努力している。できる限り、入居者様が望まれることは実現したいと考える。また、少しでも不安が取り除かれ安心して過ごせるよう支援していきたい。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	できるだけサービス導入前に見学に来ていただき実際に様子をみていただくようにし、その中で、ご家族の思いや悩みをうかがい、その後の関係作りにも反映させている。職員も疑問や伺いたいことがあれば、相談させていただくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループ内に「在宅支援会議」があり、担当者間でそれぞれのご利用者にとって最良の選択ができるように、支援の検討をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人お一人の性格や得意なことを踏まえ、些細なことでもできる限り入居者様ができることは行っていただけるよう、さりげない支援ができるよう影のサポート役になれるよう努めている。入居者様から教えていただくことも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日々の様子を写真を交えたりしながらお伝えしている。また、ご家族にも楽しんで参加していただけるような企画を練ったり、日常的な面会時にご家族を巻き込んで過ごすこともある。3ヶ月に1度、ご家族へ近況報告の便りを出している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出ボックスを活用し、昔の写真などを掲示したり、馴染みのある家具を持ち込んでいただいたりしている。馴染みの人や場所をバックグラウンドアセスメントに記入していただき、スタッフ間での情報共有に役立て、会話のきっかけにもしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性を把握し、できる限りトラブルのないように対応している。入居者様同士で穏やかな時間がすごせているときはそっと見守ることも大切にしている。他のユニットで過ごす時間を持つ方もみえる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に住み替えとなる際の情報提供を行っている。また、隣接施設のメゾン・ペイネへ移行された方もおられ、入浴時、ボランティア来訪時など日常生活の中で関わりを持つことも多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	バックグラウンドや日常の様子から、ご本人の思いを把握するよう努めている。また、やってみたいことなどを直接うかがうようにもしている。言葉での表出が困難な方は、表情や雰囲気などから思いを汲み取るなど、思いに寄り添えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドアセスメントをご家族に記入していただいたり、入居者様へのアンケートを活用して過去の暮らし方を把握する手がかりとしている。入居前に利用されていたサービスのある方は、事業所より情報をいただき活用もしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時に一度総合的に把握し、その後関わりの中から日常の様子(ADLや情緒面)を徐々に把握していく。それぞれカルテ記事への記録やカンファレンスなどの活用により、スタッフ間の共有を行うことで多くの視点で検討・把握していける。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度を目安に計画書を作成しているが、モニタリングは、毎日のチェックと毎月の話し合いによって行っている。状態変化や意向の変化があれば見直しをし、ご本人の「今」に寄り添った計画の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリング用紙にケアプランの実施結果を毎日記入している。毎月評価し、職員間で話し合っている。カルテ記事やほっと報告、トリガーシート、日誌なども活用し、情報共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接の複合施設の機能を活かし、特養の入浴機械(機械浴)を利用して入浴していただいたり、デイサービスの運動機器や卓球を体験に行ったりと、その時々状況に応じて、できる限りご本人の希望に応えられるよう配慮している。		

岐阜県 グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアの来訪あり、「音楽を聴きたい」という希望にはそえている。1月には地域の神社と文化財で催されたイベントへ参加、いつもボランティアに来てくださる方の力もお借りしながら無事に終えることができた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診を支援している。ほとんどの方が鶴沼中央クリニックへの支援であるが、今までのかかりつけ医を継続される方もいらっしゃる、ご家族を通してホームとの連携に努めている。歯科や眼科はご家族のご協力がかかりつけ医を受診していただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体法人の医療機関から看護師が定期的に訪問し、健康管理や心身の変化に対して相談に応じている。複合施設内の看護師へも毎日の報告を行うことで早期の対応につなげている。必要であれば24時間365日いつでも連絡できる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報の交換は必ず行い、入院の場合は面会に行くなど様子をうかがうようにしている。母体法人の医療機関やかかりつけ医と連携を持ち、家族と情報交換したり、話し合いのための支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアへも積極的に取り組んでいる。入居時に重度化や終末期におけるホームの対応を説明している。また、対応すべき時期を迎えたときは、ご家族、医師、看護師、職員と話し合いの場を設け終末期ケアに関する書類も作成する。グループ施設の中で一番合う施設を選ぶこともできる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。消防署立会いの下、心肺蘇生法の訓練を行ったこともある。今後も定期的に勉強の機会を設けていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施し、避難の方法など学んでいる。また、地域の防災訓練に参加したり、運営推進会議で訓練の報告をしている。実際にホームを会場とした訓練で地域の方と一緒に等を行う等の取り組みまではできていない。		

岐阜県 グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけは、その方の生活暦や性格などを考慮しながら(「先生」と呼んだり、分かりやすい言葉で話したりしながら)対応している。入居者様の行動に対し、不十分なところはさりげなくフォローするなどしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の何気ない会話から希望を引き出したり、改まっとうかがったりと、思いの表出が気軽にできる場面作りと関係作りに努めている。それらが困難な場合でも、二者選択などお一人ずつレベルに合わせた対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	にぎやかに過ごしたい、少し自分の時間を持ちたい、散歩・買い物に行きたいなど、その日の気分で過ごせるよう支援している。押し付けないよう、ご本人のペースを大切に、体調や要望を最優先しながら場面場面での支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服装は選べる方には選んでいただき、困難な方には二者選択などの方法で支援している。 カラーやパーマなど、昔からの馴染みの習慣を継続できるような支援もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや片付けなど、できる方には役割として行っていただいている。食べこぼしなどをさりげなくふき取るなどの配慮をしている。月に一度「自由メニュー」の日を設け、食べたいものの相談から、調理に至るまで入居者様と行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士や医師、看護師と連携をとりながら入居者様にあった支援をしている。摂取能力や体調にあわせ、刻み食、ペースト食への加工、一人ひとりに合わせた量での提供、摂取しやすい環境づくりをしている。栄養補助食品を活用する場合もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行い、週に2回ポリドントでの義歯洗浄を行っている。また、週に1度、重曹を用いて下苔の除去を行っている。		

岐阜県 グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合うオムツを検討している。その結果、紙パンツから布パンツへと変更できた方もいらっしゃる。その方に合う排せつパターンからトイレ誘導を行い、トイレでの排せつを促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、乳酸菌やセンナ茶、通じによい食品の使用、身体を動かすなど、便秘の予防に努めている。マッサージなどを行い、できる限り自然排便を促している。在宅での様子、今までの習慣をご家族から聞き取り参考にもしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は決まっているが、入る時間帯はなるべく希望をかなえられるように対応している。一般浴、個浴(半機械浴)、機械浴と個々の身体機能に合わせて入浴していただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調やリズムに合わせた支援に努めている。生活リズムが整えられるよう、日中の活動を促すなどの配慮もしている。眠れない方には温かい飲み物などで薬に頼らない支援を心がけている。また、空調や居室環境への配慮もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は服薬時間に合わせて色分けしている。服薬時はスタッフ二人で確認しながら行い、入居者様それぞれの薬が簡単に確認できるシステムとなっている。内服薬の一覧表があり、一目で調べられるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な分野を見つけ出し、入居者様のこれまでの生活や力量に合わせて家事的なこと(洗濯、台所しごと、掃除など)を中心にそれぞれにあった役割を持てるよう支援している。楽しいと思えるアクティビティ(散歩・歌など)の計画もしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に近隣の散歩、ひなたぼっこを行っている。また、買い物やドライブ、隣接するデイサービスセンターへの卓球や運動マシンの体験、ボランティア来訪時には特養へ出掛けている。ご家族と法事や墓参り、喫茶店などに行かれる方もみえる。		

岐阜県 グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時個人現金をお預かりし、保管はホーム側で行っている。外出時の支払いなどは、遠慮されることが多いが、入居者様にさせていただけるような場面作りと支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手や目の老化により書くことが困難になっておられる方も多いが、年賀状や季節の便り(カードなど)などの記入の機会を提供できるように支援していく。長期にわたり、実習生に世話になって嬉しかったとお礼の手紙を書かれた方がいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的で温かい雰囲気を感じていただけるよう、板張りの廊下や開放的な窓にし、調度品や台所の設備も、普通家庭と変わらないものを使用している。畳やソファなどもあり、自由な場所でくつろげるスペースがある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同のスペース内に畳や椅子のスペースがあるほか、小さな部屋があり、気分により、思い思いの場所で過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、今まで使用していたタンスなど馴染みの家具や、写真や作品などの思い出の品を持ち込んでいただいている。ご家族のご協力の下、個々にあった居心地のよい空間作りがされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置もあるが、家具などに自然につかまって移動できる配置、構造にもなっている。また、トイレに「便所」「トイレ」と張り紙をしたり、各居室に表札をつけるなどの工夫をしている。		